

尼崎市

# 自転車のまちづくり推進計画

令和3年度から令和7年度まで



～自転車の活用により、にぎわい、健康で環境にやさしいまちを目指して～

平成30年3月策定

(令和6年2月変更)

# 1 はじめに

## 1-1 本計画の趣旨

平成30年3月、尼崎市自転車のまちづくり推進条例に基づき、各種自転車関連施策を総合的かつ計画的に実施するため、「尼崎市自転車のまちづくり推進計画」を策定しました。

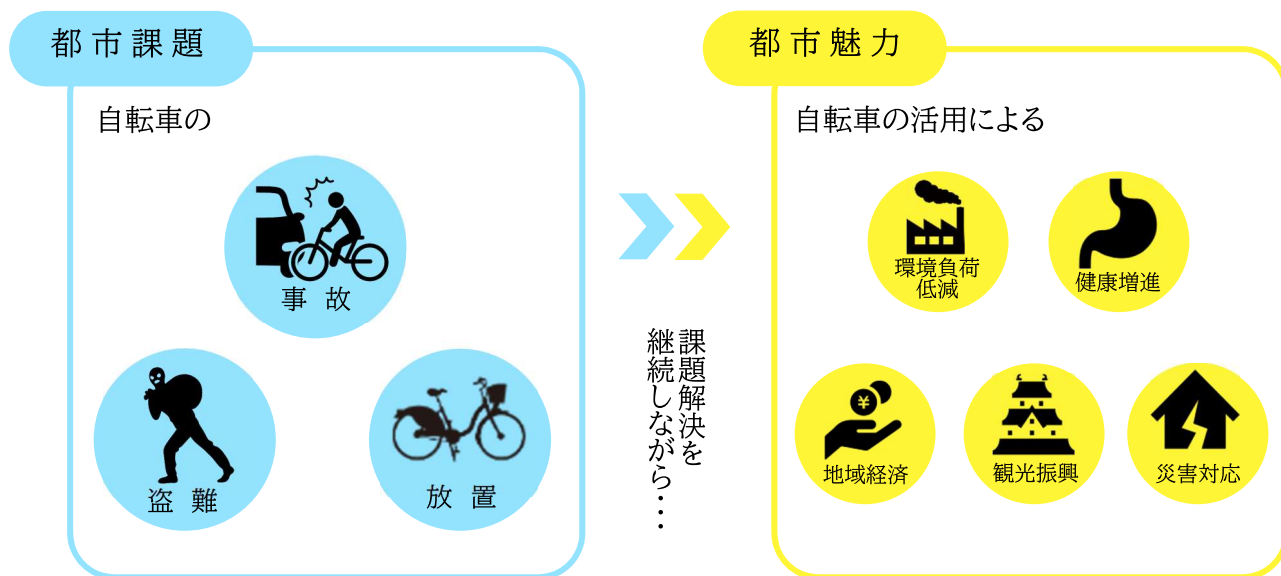
その後、平成30年6月には国において「自転車活用推進計画」が、令和2年3月には兵庫県において「兵庫県自転車活用推進計画」が策定されたことを受け、これら国や県の計画を踏まえ、本市の実情に応じた新たな視点を加えています。

## 1-2 本計画の位置づけ

尼崎市自転車のまちづくり推進条例第7条第1項及び自転車活用推進法第11条第1項に基づく市町村自転車活用推進計画です。「尼崎市自転車ネットワーク整備方針」などの個別計画も構成要素として設定している本市における自転車関連の最上位の計画です。

## 1-3 尼崎市における自転車のまちづくり(課題から魅力へのギアチェンジ)

本市における自転車の位置づけを「都市課題(事故・盗難・放置)」から「都市魅力(環境・健康・地域経済・観光・防災)」へ転換し、自転車の活用により、にぎわい、健康で環境にやさしいまち“あまがさき”を目指します。



## 1-4 計画のフォローアップ

本計画に基づく施策の実施状況については、本市職員で構成する「尼崎市自転車のまちづくり推進庁内連携会議」で進捗管理するとともに、尼崎市自転車のまちづくり推進条例第7条第5項に基づき、毎年度1回以上学識経験者等の意見を聴き、必要に応じて計画の改定を行うこととします。

## 2 各分野の取組

### 2-1 自転車関連事故防止(課題1)

#### ア 重点地区(※1)における対応

市職員による「尼崎市自転車のまちづくり推進条例」を根拠とした街頭指導を中心としたモデル施策を、毎年選定する重点地区において展開します。また、より減少させるためには、自転車関連事故の相手方の約85%を占めるクルマ・バイクに対しても啓発・指導等を行う必要があると考えています。

なお、これらを全市域に展開するため、地域で活動する市民や団体・事業者等との連携を図ります。

#### イ 全市的な対応

自転車交通安全教育については、引き続き、小・中学校におけるルール・マナー習熟度テスト、小学校における児童が自ら考え主体的に取り組める手法を実施します。また、これまで、主に対象としてきた小・中学生、高校生、高齢者に加え、就業世代のうち小学校の保護者を対象に、大人と子どもがいっしょに受講できる手法も展開します。

さらに、スマートフォンを操作しながら自転車に乗る「ながら運転」などについて、啓発や市職員による街頭指導を引き続き行っていきます。

#### 活動指標

	R2	R3	R4
・重点地区での自転車適正利用指導回数 ※2	46回	64回	31回
・自転車交通安全教室の実施回数 ※2	40回	51回	73回
・市内高等学校での自転車交通安全教室受講生徒数	1,484人	1,607人	1,537人

#### 成果指標

	R7 目標	R2	R3	R4
自転車関連人身事故認知件数 ※2	404件	512件	549件	485件

### ○ コラム1 尼崎市における自転車関連事故の実態

尼崎市では、自転車関連事故の相手方の80%以上をクルマ・バイクが占める傾向が長く続いています。クルマやバイクを運転する時は、自転車に配慮した安全な行動をお願いします。

相手方	R1	R2	R3	R4
クルマ・バイク	671件 (85.5%)	453件 (88.5%)	489件 (89.1%)	412件 (84.9%)
自転車	54件 (6.9%)	26件 (5.1%)	24件 (4.4%)	27件 (5.6%)
単独	33件 (4.2%)	19件 (3.7%)	23件 (4.2%)	33件 (6.8%)
歩行者	27件 (3.4%)	14件 (2.7%)	13件 (2.4%)	13件 (2.7%)
合計	785件	512件	549件	485件

(参考)尼崎市域における自転車関連事故の相手方内訳

※1:幹線道路ではなく生活道路における対クルマの事故認知件数が最も多い小学校区

※2:1~12月までの暦年

## 2 各分野の取組

### 2-2 自転車盗難防止(課題2)

平成 29 年度から、「尼崎市自転車のまちづくり推進条例」に基づき、自転車利用者に対して、鍵をかけるなどの対策を行うよう、指導を行っています。

さらに、平成 29 年度に社会実験を行い、平成 30 年度から本格導入している「Alar-mmy.」(※3)を中心に、引き続き、客観的なデータを活用し、より効果的に自転車盗難防止に取り組みます。

#### 活動指標

	R2	R3	R4
アラミー配置箇所数	3 箇所	3 箇所	3 箇所

#### 成果指標

	R7 目標	R2	R3	R4
自転車盗認知件数 ※4	997 件	1,233 件	1,004 件	1,280 件



アラミーの南京錠型セキュリティロック



アラミー配置

### 2-3 放置自転車対策(課題3)

令和元年度から適用している商業地域、近隣商業地域や共同住宅における駐輪場の新たな設置基準の周知等に努め、駐輪問題の解消に取り組んでいきます。

#### 活動指標

	R2	R3	R4
放置自転車撤去台数	2,959 台	2,320 台	2,552 台

#### 成果指標

	R7 目標	R2	R3	R4
・市内全駅の駅前の放置自転車台数	82 台	131 台	83 台	94 台
・駐輪場区画不足解消共同住宅数	2 戸	0 戸	0 戸	0 戸

※3:アラームとダミーからの造語で、アラミーと読みます。振動を感知すると警報が鳴る南京錠型セキュリティロックを自転車に装備し、ダミーとして市内複数箇所に配置する手法。

※4:1~12月までの暦年



## 2 各分野の取組

### 2-4 環境負荷低減への活用(活用1)

日常生活に起因する環境負荷を軽減していくため、自転車を持つ二酸化炭素を排出しない移動手段であるという環境面での機能(メリット)についての知識を深めてもらい、エコライフ推進の一環として、自動車から自転車や徒歩への転換を推進します。

#### 活動指標

	R2	R3	R4
自転車利用についての広報回数	2回	3回	3回

#### 成果指標

	R7 目標	H30	R1	R2
二酸化炭素排出量(運輸部門)	38.2 万 t	39.9 万 t	37.9 万 t	38.0 万 t



尼崎市気候非常事態行動宣言リーフレット

### 2-5 健康増進への活用(活用2)

自転車を持つ健康面での機能(メリット)はもちろん、スポーツジムなどに通うことが難しい方でも、手軽に適度な運動ができ、生活習慣病などの予防につながれることについての知識を深めてもらう取組を総合的に推進します。

#### 活動指標

	R2	R3	R4
年間を通して健康行動を起こした人数	853人	721人	1,020人

#### 成果指標

		R7 目標	H30	R1	R2
健康寿命	男	80.2 歳	78.4 歳	78.5 歳	78.7 歳
	女	85.4 歳	83.5 歳	83.7 歳	83.5 歳

### ◦ コラム 2 気軽にできる自転車健康法

厚生労働省「健康づくりのための身体活動基準2013」によると、生活習慣病を発症するリスクを低減させるための身体基準は「3メッツ以上の強度の身体活動を毎日60分以上(18~64歳)」としています。

運動の強さを表す単位を「メッツ」といいます。座って安静にしている状態が1メッツ、普通歩行が3メッツに相当します。自転車は4.0メッツ。歩くよりも強い運動ができることとなります。

なにげなく自転車に乗っているだけでも健康に繋がっています。自転車なら移動も運動もいっしょにできて一石二鳥ですね。

## 2 各分野の取組

### 2-6 地域経済への活用(活用3)

自転車で近くのお店を訪れてこまめに新鮮な食材を購入することは暮らしの豊かさにつながります。そのため、多くの方が利用される商店街において快適に買い物ができるよう、商店街での自転車ルールへの遵守やマナー向上などを図り、自転車を利用した買い物を、より便利に、より魅力的に楽しめる取組を推進します。

#### 活動指標

	R2	R3	R4
・マナー啓発パトロール参加人数	0人	18人	49人
・自転車誘客イベント(共催含む)	0回	1回	3回

#### 成果指標

	R7目標	R2	R3	R4
市内で便利で魅力的な買い物ができていると思う市民の割合	90%	90.5%	81.3%	78.8%

### 2-7 観光振興への活用(活用4)

「尼崎版観光地域づくり推進指針」や「重点取組地域における尼崎版観光地域づくり戦略」に基づき、引き続き尼崎城を中心とした城内まちづくりをはじめとする観光施策に取り組む中で、自転車での移動に適した市内周遊コースの紹介などを行います。

また、これら観光施策の展開や地域経済の活性化等にも活用が期待されるコミュニティサイクルの継続・発展に向けた取組を推進します。

#### 活動指標

	R2	R3	R4
・観光スポット等のコミュニティサイクルポート利用者数	160人	419人	530人
・尼崎市リンリンステーション※5の設置数	6か所	6か所	6か所

#### 成果指標

	R7目標	R2	R3	R4
市内の観光客入込客数	280.0万人	136.3万人	164.2万人	241.6万人



尼崎市リンリンステーション  
(市立田能資料館)



コミュニティサイクルポート  
(尼崎城)

※5:無料で空気入れを利用できるスポット

## 2 各分野の取組

### 2-8 災害対応への活用(活用5)

災害対応での、自転車の活用の実施に努めます。例えば、次のような活用があると考えています。

#### ①公共交通が不通になった場合の参集手段としての活用

本市職員は、災害により普段使用している通勤手段の利用が難しい場合であっても、迅速に参集することとしています。このことから、本市職員に対し、参集経路の確認も含め災害時における参集手段としての自転車の活用を推進します。

#### ②道路その他の被災状況の把握手段としての活用

コミュニティサイクルや公用自転車など災害時における現地調査等への活用に努めます。

#### 活動指標

	R2	R3	R4
職員向け災害関係研修等での周知回数	—	1回	0回

#### 成果指標

	R7 目標	R1	R2	R4
災害時における現地調査等への活用状況	—	—	0回	0回

### コラム3 【クイズ】自転車が走行できる場所、徐行する場所、知っていますか？

道路を走っていると色々な標識を見かけます。標識を見て自転車が通れる場所か通れない場所か、すぐにわかりますか。

以下の写真はどちらかが自転車に乗ったまま通ることができない場所です。違いがわかりますか。

①



アマゴッタ付近  
(自転車歩行者道)

②



中央商店街  
(歩行者専用道路)

正解は②です。こちらは歩行者専用道路のため自転車に乗ったまま通ることができません。このような場所では自転車から降り、押して通行しましょう。

①は自転車に乗ったままでも通れますが、徐行しなければならず、歩行者を優先します。この標識がない場所では、自転車は車道の左側を通行しなければなりません。

標識の意味を正しく理解し、安全運転を心がけましょう。

## 2 各分野の取組

### 2-9 自転車の走行環境整備

自転車ネットワークとして、①駅を中心とした拠点間を結ぶネットワーク形成、②隣接市の自転車ネットワーク計画との連続性を考慮した幹線道路及びその補完路線を軸としたネットワーク形成の考え方を基に選定した道路については、既存の道路空間を再配分し、整備を進めます。その他、駅や公共施設など拠点周辺の細街路についても、自転車ネットワークの整備効果を高めるために、整備を進めます。

#### 活動指標

	R2	R3	R4
1年間の整備延長キロ数(国道・県道含む)	1.50km	3.28km	2.80km

#### 成果指標

	R7 目標	R2	R3	R4
総整備延長キロ数	41.8km	20.1km	23.4km	2.8km



近松線(自転車道)



西川線(自転車レーン)



新幹線側道(矢羽根)



竹谷小学校区内交差点  
(自転車とまれマーク)



## 2 各分野の取組

尼崎市自転車ネットワーク図



### 3 共通取組方針

各分野の施策の推進にあたっては、以下の3つの方針に沿って行うものとしています。

#### (1) 重点的かつ効果的な事業推進

各分野の様々な取組については、本市の自転車のまちづくりに関する周知・広報などは全市的に取り組む一方、例えば、自転車事故や盗難の防止についてはそれぞれの多発エリアで、地域経済の活性化の事業は商業地域を中心にそれぞれ行うなど、地域ごとの特色を踏まえ、重点地区を設定し、効果的な展開を狙います。



自転車事故防止の取組  
(交通安全指導)



自転車盗難防止の取組  
(アラミー)

#### (2) 協働による取組

各分野の様々な取組については、地域で活動する市民や団体・事業者等の人的資源とも連携し、それぞれの強みを活かして協働で行い、シビックプライドを醸成します。

平成30年度からは、自転車のまちづくりに協力していただいている、または自主的に自転車のまちづくりを推進している方々を「グッと！尼っ子リンリンサポーター」として認定しています。

(参考)グッと！尼っ子リンリンサポーター一覧

企業・団体又は氏名	取組の概要	認証分野
ちゃりんこ来恋大作戦実行委員会	商店街内の押しチャリを推進するイベント等の実施	事故の防止、楽しみの周知
ロンロン	環境保護と交通安全に留意した宅配弁当の配達	事故の防止、環境負荷の低減
日本製鉄㈱関西製鉄所尼崎地区	自転車検定制度の導入及び普及促進	事故の防止
日鉄ビジネスサービス関西(㈱)尼崎支店	自転車検定制度の導入及び普及促進	事故の防止
㈱大阪チタニウムテクノロジーズ	自転車モデルライダー検定制度導入	事故の防止
NPO法人つなげる	多様な自転車で街シェアサイクル等	事故の防止、環境負荷の低減、楽しみの周知等
㈱ふたごじてんしゃ	「自転車街づくりを進める尼崎」をPR等	事故の防止、環境負荷の低減、健康増進、楽しみを広める取組等
国際航業(株)	自転車マナーポイントアプリケーションの開発・普及	事故の防止
武庫之荘水と緑のまちづくりプロジェクト実行委員会	自転車事故・放置自転車・自転車盗難の防止への啓発活動と環境づくり	事故の防止、迷惑駐輪の防止、盗難の防止、環境負荷の低減、健康増進等

### 3 共通取組方針

#### (3)積極的な情報発信

様々な分野にまたがる尼崎市における自転車のまちづくりについて、市民等がワンストップで情報を取得できるよう、新たに、自転車総合ポータルサイト「尼っ子リンリン」を開設しています。

このサイトでは、引き続き、自転車ルール・チャレンジテスト、駐輪場の場所や営業時間の紹介、コミュニティサイクル、サイクリングマップ、まちの自転車屋さんの紹介といった情報を発信していきます。

#### 活動指標

	R2	R3	R4
ポータルサイトの新規ユーザー数	14,192 人	21,231 人	19,415 人

#### 成果指標

	R7 目標	R2	R3	R4
安全に、安心して、快適に自転車を利用できていると感じる市民の割合	77.0%	44.0%	43.4%	41.8%



「尼っ子リンリン～尼崎市自転車総合ポータルサイト～」  
トップページ

# 施策及び指標一覧

項目	成果指標				
		R2実績	R3実績	R4実績	R7目標
自転車関連事故防止(課題1)	自転車関連人身事故認知件数	512件	549件	485件	404件
自転車盗難防止(課題2)	自転車盗難認知件数	1,233件	1,004件	1,280件	997件
放置自転車対策(課題3)	市内全駅の駅前の放置自転車台数	131台	83台	94台	82台
	駐輪場区画不足解消共同住宅数	0戸	0戸	0戸	2戸
環境負荷低減への活用(活用1)	二酸化炭素排出量(運輸部門)	38.0万t	—	—	38.2万t
健康増進への活用(活用2)	健康寿命	男78.7歳	—	—	男80.2歳
		女83.5歳	—	—	女85.4歳
地域経済への活用(活用3)	市内で便利で魅力的な買い物ができると思う市民の割合	90.5%	81.3%	78.8%	90.0%
観光振興への活用(活用4)	市内の観光入込客数	136.3万人	164.2万人	241.6万人	280.0万人
災害対応への活用(活用5)	災害時における現地調査等への活用状況	—	1回	0回	—
自転車の走行環境整備	総整備延長キロ数	20.10キロ	23.40キロ	2.80キロ	41.80キロ
共通取組方針	安全に、安心して、快適に自転車を利用できていると感じる市民の割合	44.0%	43.4%	41.8%	77.0%



活動指標				所管局
	R2	R3	R4	
重点地区での自転車適正利用指導回数	46回	64回	31回	危機管理安全局・教育委員会事務局
自転車交通安全教室の実施回数	40回	51回	73回	
市立高等学校での自転車交通安全教室受講生徒数	1,484人	1,607人	1,537人	
アラミー配置箇所数	3箇所	3箇所	3箇所	危機管理安全局
放置自転車撤去台数	2,959台	2,320台	2,552台	都市整備局
自転車利用についての広報回数	2回	3回	3回	経済環境局
年間を通して健康行動を起こした人数	853人	721人	1,020人	健康福祉局
マナー啓発パトロール参加人数	0人	18人	49人	経済環境局
自転車誘客イベント数(共催含む)	0回	1回	3回	
観光スポット等のコミュニティサイクルポートの利用者数	160人	419人	530人	経済環境局・危機管理安全局
尼崎市リンリンステーションの設置数	6箇所	6箇所	6箇所	
職員向け災害関係研修等での周知回数	—	0回	0回	危機管理安全局
1年間の整備延長キロ数	1.50キロ	3.28キロ	2.80キロ	都市整備局
ポータルサイトの新規ユーザー数	14,192人	21,231人	19,415人	危機管理安全局・健康福祉局・都市整備局・経済環境局・教育委員会事務局

## 尼崎市自転車のまちづくり推進計画

---

尼崎市危機管理安全局  
危機管理安全部生活安全課

〒660-8501 尼崎市東七松町1丁目23-1  
【TEL】06-6489-6502 【FAX】06-6489-6686



自転車総合ポータルサイト  
尼っ子リンリン

---